

## 「中江藤樹・心のセミナー」 二会場映画会開催

今年度の「心のセミナー」は、市内の皆さん、とりわけ南北地域（高島・マキノ）の方々に藤樹さんをもっと身近に知っていただきたいと願って、「近江聖人・中江藤樹」の映画鑑賞会を企画しました。

先ず三月七日（土）の午後に、マキノの土に学ぶ里研修センターで開催しました。あいにくの雨でしたが、会員を含めて四十八名の方が来場されました。

続いて三月八日（土）の午後に、高島公民館アイリッシュパークで開催しました。この日は、会員を含めて五十五名の方が来場されました。

二日間、合わせて百人を超える方々に鑑賞していただくことができました。『聖人』と称された中江藤樹先生の人となりや考え、生き方を見事に映し出されていたこの映画に、感動された方が多かったことだろうと思えます。私も十年前に見たことがあるはずですが、忘れてしまっているところがたくさんありました。改めて、見慣れ

# 高島藤樹会活動の紹介

た景色に親しみを感じながら、一場面、一場面に感動を覚えることができま



今回参加できなかった皆様も、お手元に『近江聖人・中江藤樹』のDVD（又はビデオテープ）がありましたら、是非ご覧いただくことをお勧めします。（藤樹会にも残部がありますのでお問い合わせください。）参加いただきました皆様、本当にありがとうございました。

## 藤樹人間学学習会： 藤樹思想を学び考え実践する

田中清行

（事務局）

今号から約三年半前から始めた本学習会の内容をシリーズで紹介します。

最初の約三年間は『翁問答』に取り組みました。藤樹思想が前期、中期、後期があるといわれている中で、『翁問答』は中期後半の藤樹学形成期に「孝」の思想が確立された時の主著です。「孝」の思想は、概していえば、天

（太虚、大宇宙）と人（我・他人）が、親子の延長線上にあり、大いなる親子関係で繋がっているという、悠大で他に類をみない温かい思想だと話し合いました。

三年間かけてじっくり学んだので、理解が深まったのではないでしょう。久保田暁一先生も皆出席で温かく見守ってください時々お考えを吐露していただきました。

十二月から『大学解・通解』に入りました。『大学』を藤樹先生が読み解かれた先生晩年の著書で、西晋一郎先生が通解されています。

一月十四日（水）、安曇川公民館で学習会を行いました。

はじめに次のように話しました。吉田松陰は「人は何のために学ぶのか。：自分を磨いて、世の中に役立つため学ぶのだ。そのために広く、深く学んで、自分の頭で考え行動することが大事！」と言っています。私たちもそういう志を持って学び続けましょう。

二月十一日（水）、安曇川公民館で行いました。

はじめに次のように話しました。内村鑑三は「楢円形の話」をしています。真理は円形に非ず楢円形なり。一個の中心の周囲に描かるべきものに非ずして二個の中心の周囲に描かるべきものである。：宗教の真理が、中心を二つ持つ楢円形とみる見方は、自と他とみるだけでなく、それ以上に愛と義

の問題として論じられている。私たちは、「孝」の思想もまた真理であることを話し合いました。

その上で本文に入り「大学の道は、明德を明らかにするに在り。民に親しむに在り。至善に止まるに在り」から学び始めました。これは「大学の三綱領」といわれるものです。

三月十一日（水）、ウエストレイクホテル可以登楼で行いました。

今回から副読本として古川治著『中江藤樹』を用いました。

明德は誰でもが持っている美しい心であるという思想が二千五百年前から現在も続いていることの意味について考えました。

四月八日（水）、安曇川公民館で行いました。

「民に親しむに在り」とは、明德が天下一切の事物に行き渡ること。そこには慈愛、親愛の心がある。しかし、その親愛の心には「私欲」が混じり入っているのです、そういう我執を取り払うことにより、至善（最高善）に至り、そこに止まることができるといふこと。

これは「良知に致る」ために「五事を正す」と同様のことではないか、と議論しました。

六月からは第一土曜日の午後に行います。皆さまのご参加をお待ちしています。共に学びましょう。